

# 御挨拶

理事

本日は、私達山梨大学合唱団の演奏会に多数御来場下さいまして、誠に有難うございます。

さて、合唱団が佐々木先生の御指導を受けてから、今年でちょうど十年目を迎えました。中学、高校時代に合唱の経験のない者がほとんどですが、分離唱で耳をひらき、心を一つにして聴き合えば誰でも美しいハーモニーを創り出せることを知りました。耳に自信のなかつた者でさえ、信じられないほど耳が利くようになって、パート練習の苦労も、暗譜という作業もなくハモれる楽しさ、お互いの心を聴き、心を言葉で語ることによって、音楽の真の歓びを知り得たことを、この上もなく幸せに思っています。

九月上旬の一週間の夏合宿では、私自身先生がいつも言われる仲間同志の心のつながり、皆の心の優しさに感動し、ハーモニーがこういう場や普段の生活の中で生かされることの素晴しさを体で感じることが出来ました。

本日は、私達が生みだすハーモニー、音楽の歓びを皆様とわかつ合うことが出来ましたら幸いです。

尚、この演奏会に御協力下さいました皆様に深く感謝いたします。

## 透明な音色

顧問代理

合唱団顧問の吉岡先生がアメリカに留学中なので、その間代理を引受けすることになった。

以前私自身が顧問をしていた頃には、一時期常任指揮者が居ず、学生指揮者だけでやっていたこともあった。いろいろな迂余曲折をへて佐々木基之先生に御指導をお願いすることになった時にはほっとしたのを覚えている。それからもう10年になるのだという。その間、佐々木先生の情熱と献身的なご努力によって、山梨大学合唱団は中央でも話題となる一つの特色を持った合唱団に成長してきた。それは分離唱による美しいハーモニーと天使の声かと思われるほどの透明な音色である。今年もその声が聞く人の心を洗わずにはおかないことであろう。

## 十年一昔

指揮者 佐々木基之

三日坊主という言葉があるように、私にも気紛れなところがありますが梨大合唱団と巡り合ってからもう十年も経てきたことに驚いています。

この二、三年は、なんとなく唱う時は音取りもなしに唱えるようになりました。学生合唱の宿命は毎年メンバーが若干交代することですが、分離唱の訓練を受けながら先輩のハーモニーの中で育つ新人の進歩は著しく、私の予想以上の成果を見せてもらっています。

移動ド唱法に固執する日本の学校音楽教育によって、生來の絶対音感保持者でさえ、音感は鈍り耳の働きを相当阻害されている事実に公憤を覚えるほどです。

大学生でも、こうして耳がひらけて音楽の心を表わせることを思うとき、小学校一年から分離唱（ドイツ音名で）を実施したなら……と実現を願わずにはいられません。音楽公害は若者たちを蝕み、青少年の犯罪は年々激増、しかも低年化して不安と逼迫が世界中に及んでいる今日、学校音楽教育で子供から耳をひらきハーモニーの歓びを知らせることは、どんな道徳教育より人間形成に役立つことでしょう。